



「津屋崎千軒 海とまちなみの会」ニュース

はちがめ通信(8号)

(はちがめ：津屋崎の方言でカブトガニのこと)

《2面》

平成22年(2010年)7月4日発行

発行：津屋崎千軒 海とまちなみの会
(略称 海とまちなみの会)
住所 〒811-3304
福津市津屋崎2丁目1番1号
会長 吉村 勝利
Tel : 090-7451-8063
Fax : 0940-52-1795
E-mail:yosi3019@sage.ocn.ne.jp
HP : http://tsuyazaki-sengen.com/

「第8回日本都市計画家協会賞」・福岡支部賞を受賞

6月19日、東京で表彰式が行われました

詳細はホームページ
をご参照ください

「津屋崎千軒 海とまちなみの会」が、NPO法人日本都市計画家協会(東京)の「第8回日本都市計画家協会賞」・福岡支部賞を受賞し、6月19日に東京の建築家会館ホールで表彰式が行われ、湯浅美子広報世話人と今橋勢津子会員が出席、表彰状と賞金5万円を授与されました。

日本都市計画家協会は、都市・地域計画の専門家やまちづくりに興味のある全国の人たちが、まちづくりで社会貢献しようとする自主的に活動している全国組織のNPO法人。協会賞は、全国の広範なまちづくりの取り組みの中から、優れた理念を持つ活動や計画、プロジェクトなどを表彰し、まちづくりの理念と実践の拡大に役立てたいと授与されています。

福岡支部賞は、同協会支部がある福岡県内での有効なまちづくりのためのプロジェクトや取り組みを対象として表彰されます。

本会は、「**“A Quaint Town” (古風な趣のある町)・〈津屋崎千軒〉**の活用」の取り組みのテーマで応募していました。授賞理由について、同協会では「伝統的建造物を軸に『そうっこう』という地域言葉を用い、まち歩きから始めた活動が、ボランティアガイドの育成、外国語まちなみマップの作成など多様な活動にまで発展してきている」としています。

本会では2009年6月1日、まちづくりに貢献したとして「第27回まちづくり功労者」国交省大臣表彰を東京・ニッショーホールで受けており、2年連続の受賞となりました。

写真：賞状を朗読する牧敦司・日本都市計画家協会福岡支部長(左)から「海とまちなみの会」を代表して受賞する湯浅美子広報世話人(中央)と今橋勢津子会員＝2010年6月19日、東京の建築家会館ホールで(写真は同協会の大和田清隆氏提供)



表彰式に出席して 湯浅美子

魅力ある空間と豊かな文化のまちづくりのために、そこに暮らす人たちが創意工夫をこらし、手をたずさえて取り組む活動を全国から公募して、優れた内容の活動を選定し応援する、特定非営利活動法人「日本都市計画家協会」の公募に私達の会も応募していたところ、「**“A Quaint Town” (古風な趣のある町)・〈津屋崎千軒〉**の活用」が福岡支部賞を受賞することになりました。

6月19日(土)に東京渋谷区神宮前の建築家会館で表彰式やシンポジウム、懇親会があり、会を代表して私湯浅と今橋が出席してきました。日本まちづくり大賞を受賞した埼玉の団体をはじめ、日本全国から10団体の参加があり、遠くは北海道からも見えていました。プロジェクターを使っての詳しい活動の紹介は大賞のみで少し残念でしたが、名刺交換や『そうっこう地図』を配って、津屋崎や会の活動の宣伝はしっかりやってきました。

「津屋崎千軒 うみがめ祭・町家まつり」

人気呼んだ「塩倉庫ライトアップコンサート」



「海とまちなみの会」が、メンバーに参加した実行委員会主催の「津屋崎千軒 うみがめ祭・町家まつり」が4月17日(土)、18日(日)に開催、延べ約8千人の来場者がありました。福津市まちおこしセンター「津屋崎千軒なごみ」で、本格的なまつり催事を行えた意義は大きく、「福津の極み」商品販売＝写真左＝をはじめ、「津屋崎の身近な淡水・汽水の魚たち」展など盛り沢山のイベントを催しました。実行委に事務局長を含む実行委員



3人を参加させた「海とまちなみの会」は、福津市津屋崎3丁目の通称「塩倉庫」(塩務局付属文庫)についての南時夫・市教委文化財係長の講演会や、「津屋崎塩田」回顧展、塩作り体験教室、「伊藤伝右衛門ゆかりの津屋崎写真展」を企画・開催。「海とまちなみの会」が企画、運営し「塩倉庫」前広場の特設野外ステージで開催した「塩倉庫ライトアップコンサート」＝写真右＝には、約2百人の音楽ファンが詰めかけ、津屋崎塩田の歴史や構造について学ぶ機会ともなり、大変喜ばれました。



波折神社で挙式

6月12日(土)、津屋崎千軒の波折神社で結婚式が行われました。式を挙げたのは「海とまちなみの会」の会員で、NPO法人地域交流センター津屋崎ランチ代表の山口覚さんと、表現音楽療法士の津田美佳さん。白無垢と紋付袴姿の二人が津屋崎千軒を練り歩くと沿道から祝福の声が上がりました◆都会のホテルではなく、津屋崎千軒の中で結婚式を挙げたい。二人の思いに応える形で有志による実行委員会が結成され、式の道具の準備、境内の清掃から巫女の手配に至るまで手作りの結婚式を実現しました◆「結婚という喜びの日を町の人たちと分かち合えたことが嬉しい」と二人は笑顔で語りました。・・・いつまでもお幸せに。(文・写真とも木村航)